

編集後記

本年最初の *e-Magazine* 第8号をお届けします。時間が経つのは早いもので、年が明けたかと思えば、もう3月末です。昨年、わが研究所副代表を務めていただいていた井口廣さんがタイで急逝されてもう1年が過ぎました。我々にとって、かけがえのない人でした。そこで、巻頭言で井口さんを偲ぶ文章を掲載しました。

今回も面白い文章を多数掲載することができましたので、是非一読されるようお勧めします。内容は読んでいただければお分かり頂けるのですが、ごくごく簡単に内容をご紹介しますと、以下の通りです。

2つ目は中南米やアフリカを研究対象にしておられる溝辺先生が、今回は何度も足を運んで現地調査をしておられるブラジル・セラードの人口問題を扱う文章を書いておられます。セラードと言えば、かつて不毛の大地と呼ばれながら、奇跡の「緑の革命」などと称賛され、その農業開発には日系人が集団で入植して実現したことで知られており、いわば日本政府と民間が資金面や技術面で支えた政府開発援助の代表的な事業でもあります。

3つ目はアジア諸国の食料問題がご専門の上原教授が、特にインド・ターナー市の現地調査に基づいて、経済成長に伴って変化しつつある、食料問題の実体と格差拡大に関する興味ある文章を享受ご専門の立場から書き下ろした寄稿です。

4つ目は、わが研究所の長谷川代表が最

近注目されているミャンマーの政治・経済改革がどの程度進み、成功するか、成功するにはいかなる条件が必要か、などについて、最近の情勢を踏まえて書いたものです。

5つ目は辻教授が法の支配が海外直接投資にどの程度の影響を及ぼすかに関する興味深い問題を、サブサハラと東アジアについて比較考察したものです。

6つ目の「ニュースの裏を読む」は最近アジア諸国で多発している労使紛争を中心に、アジアに進出する日系企業が進出に先駆けて、注意し、あらかじめ対応を考えておくべき問題を扱ったものです。

7つ目は、前回に引き続き、濱田教授がご専門のタックス・ヘイブンに関する研究成果を寄稿されています。タックス・ヘイブンに関する興味ある問題を扱っており、前回の論考と合わせて読んでいただければさらに有意義かと思えます。

そして、8つ目は、最近話題になっている中国が金利自由化する場合の課題を扱ったものです。これは中国金融の専門家である童教授が書き下ろした、大変有意義な論考といえるでしょう。最近の中国経済を理解するうえで、大変興味あるテーマであり、是非一読されますようお勧めします。

今回も様々な角度からアジア並びに南米が直面する課題や最新情勢を扱っており、皆さんのお役にたつことは間違いないと信じます。是非一読し、感想をお寄せくださいますようお願いいたします。(KN 生)